タウン タウン 小麦

特定非営利活動法人
発　行　くまがや小麦の会
発行責任者　日向美津江
ホームページアドレス
http://www.kumagayakomuginokai.jp/
くまがや小麦の会　検索

認定 NPO 法人
くまがや小麦の会
since 2006
事務局　〒360-0801　埼玉県熊谷市中奈良1797-1
TEL. 048-521-7801

Interview シリーズ No. 29

「歓喜院聖天堂」国宝指定10周年対談 地域の文化遺産と街づくり

ひと彩々

日　時　令和4年4月26日（火）
会　場　国宝「歓喜院聖天堂」本堂及び国登録有形文化財「籠堂」
妻沼聖天山歓喜院　院主　鈴木英全
熊谷市長　小林哲也
進行　熊谷市立江南文化財センター　山下祐樹

国宝指定10周年を祝して

進行　本日は妻沼聖天山本殿「歓喜院聖天堂」の国宝指定10周年を記念して、歓喜院の鈴木英全院主、熊谷市の小林哲也市長にお越しいただき、熊谷市の文化遺産と街づくりをテーマにした対談を進めてまいりたいと存じます。宜しくお願い致します。

院主　妻沼聖天山にお越しいただきありがとうございます。小麦の会の日向会長のお取り計らいで、市長さんとの対談を企画していただき、感謝申し上げるところです。

市長　「歓喜院聖天堂」が国宝指定10周年を迎えますこと、誠におめでとうございます。正にこの国宝「歓喜院聖天堂」において、歓喜院の鈴木英全院主様と対談できますこと、大変有意義であり、また、とてもうれしく感じます。

国宝「歓喜院聖天堂」と熊谷と妻沼

院主　妻沼から熊谷へという行政の拡大の中で、現在の熊谷市に着目をしてみると確かに色々な課題があるほか、市長さんとしても市の行政の担い手として大変なのではないかと感じるところです。県北の雄都と呼ばれた熊谷ですが、人口減少や交通政策、都市整備の課題など、すぐには解決できない問題も多く、新たな見地に立った施策が必要であるように思います。例えば「よそ者、若者、変わり者」がいる街は発展するというコメントを耳にしたことがありますが、まさにその典型が最近の妻沼周辺の街おこしに関わる「民」の動きです。

市長　私も「よそ者、若者、変わり者」、時折、失礼ながら「馬鹿者」という言い方もありますが、そうした人々が街づくりに関わることは、旧態依然としている街の行政に新たな風を吹かせることができると思います。都市整備の課題や交通の利便性向上という観点もそうした考えによって打開できることもあります。

4月から経験豊かな新たな見地として国土交通省から大島英司副市長を招聘しました。市民の皆様と協働しながら様々な施策を実行していけたらと考えています。

現代に歴史を継承する

院主　実盛公が妻沼地域の今に引き継がれる信仰の歴史の原点であり、現在も多くの方が妻沼聖天山を大切に思っていただいております。檀家さんがいらっしゃいますこと、そのような方々が「妻沼聖天様」として、長い間、人々の信仰の拠点となっていたことを思う時、蓮生坊が強い信念をもって歩んできたことを広く知ってもらうことが、熊谷寺と市民が協調できる道筋につながるのではないかと考えています。

今後、新幹線の発着回数など、交通に関する課題解決を視野に入れながら、交通の要衝である熊谷ですから、熊谷からどこか様々な地域から熊谷へ訪れる人々を増やすこともできると思います。例えば、実盛公の出身地である北陸地方から熊谷の妻沼聖天山、更には熊谷寺を訪れることで、歴史の継承が現代の観光資源や文化的価値につながるのではないかと期待しています。

国宝の技術的価値をめぐって

院主「平成の大修理」と呼ばれる保存修理事業は、当時の妻沼町の高橋茂町長が必ず実施するようにという強い意志と勇気付けられ、工事に進み出たものでした。当初は予算もなく、行政の補助も不透明なままでしたが、多くの方々の協力により無事に終えることができました。当初の予定より期間が延長したという経緯がありましたが、これは漆や彩色復元の工程作業が計画より時間的に必要となったことが理由でして、その際も高度な保存技術の存在を再認識したところです。

市長　現在、国内では、建造物の装飾技術がユネスコ無形文化遺産に登録されたことで、日本の伝統建築を支える技術が世界的にも無形文化遺産として認識されていることは、とても大きな進歩であるといえると思います。

ただし、このような優れた技術をもつ技能者を育成するにあたって、日々我々がやるべきこと自体にとりわけ変化はないと、いえるのではないでしょうか。

技術の伝承をめぐって

院主　人材育成の課題は、国内の多くの業種で同様な意見を聞くことがあります。かつては、歓喜院聖天堂の建立や関連建造物の彫刻などに関わった林兵庫正信や石原吟八郎といった技術者の流れがあったわけですが、若い世代の人々を技術継承の担い手としてお願いするためには、その世代にこの技術に関心を持たせることや、雇用という形態をどのように準備すべきかなど、様々な課題と向き合う必要があります。

市長　文化財の保存や建造物の補修に関わる人材の育成については、現在においては、国・県・市の保存修理事業にあるように、事業の委託者や発注者が会社組織や比較的規模の大きい団体である必要があり、その下請けに技能者を持つ小規模の団体がある状況です。こうした中、限られた予算の中で、この技術の継承のために関わるメリットに疑問を感じる人もいるように思います。

国宝「歓喜院聖天堂」と街づくり

進行　国宝「歓喜院聖天堂」をはじめとする文化財を、街づくりに生かすことについてのお考えをお聞かせください。

院主　文化財を閉鎖的にせず、可能な限り公開活用していくことが大切だと私も考えています。熊谷市も市内にある多くの文化財や文化遺産を多くの人に知ってもらい、実際に活用してもらう。それが街づくりの大きな力になると感じています。

市長　国宝指定後、日本を代表する文化財建造物を目にしようと、全国から多くの方々が妻沼聖天山へ足を運んでいらっしゃいます。それに対しましては、地元妻沼の皆様の温かなおもてなしがあり、大変好評であるとうかがっています。これは、熊谷市のイメージアップにつながっています。改めて感謝申し上げます。

今後とも、歴史と文化の薫るまちとして、「熊谷」の魅力を世界に力強く発信できるよう、国宝「歓喜院聖天堂」を始めとして、本市が誇る貴重な文化財の更なる保存・活用、そして、地域の観光振興に、全力で力を注いでまいりたいと思います。

進行　国宝指定10周年に想いを馳せながら、多岐に渡る対談となりました。本日はありがとうございました。

麦笛

「セッションから化学反応が生れる」

日向美津江

コロナ禍も落ち着きを見せ始め、二年間封印されていた各種団体の総会が開催され始めてきている。流石に三年間紙上総会で切り抜ける決断に、コロナウイルス感染者数が微妙な数値を示している。そんな中、ある同窓会が二年間の総会中止を経て、対面、アトラクションにピアノ&テノールのコンサート、チアガール、食事付の通常通りの総会をコロナ対応を鑑み実施した。

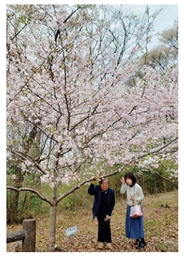
◆同窓会幹事は二年間の封印後の総会への出席者が募れるか按じながらの総会準備であった。返信の回答で安心した。直前総会の出席者数を若干上回る回答を得た。開催に踏み切った不安感が一掃され、幹事会は総会当日、出席者が気持ち良く、楽しめる会の開催に心を砕いた。

当日は受付で席順のくじ引きで着席して頂いた。開会の辞で会が始まり、現役学生によるリードの元、校歌斉唱は全員起立でマスクのまま歌った。三年振りの総会はコロナ禍を経て再会できた喜びが校歌斉唱に込められていたように感じた。総会も無事終了し、アトラクションのピアノ、テノールのコンサートに移った。ピアノソロ、テノールが加わり、演奏者の心からなるパフォーマンスが展開された。座席で受け止める聴衆が演奏にのめり込む姿勢も感じられた。つい2～3ケ月前に今回のアーティストと同じ組み合わせのコンサートを聴いてたが、テノールの突き抜けるような高音の迫力は違った。今回は聞き惚れた。演奏者と聴衆の距離が近かった事もあるのか、ピアノとテノールと聴衆が一体となって大きなバルーンの中にいるような錯覚に捕られた。会場に化学反応が起きたに違いない。参加した皆様と共有した幸せな一時であった。

◆同窓会、研究会、スポーツ、市民活動、各種業界、政党、宗教、趣味の会、等々同じ志を持つ方々の集まりが、時としては毛穴が経つような幸せを感じる化学反応を起こす事があるのではないかと思う。この化学反応のエネルギーは、集まる方々の同志をリスペクトする利他の精神の集合体に他ならないと思っている。今回の同窓会でこの幸せを感じ、書かせて頂いた。

小麦の会 ボランティア活動

「小江川1000本桜」小麦の会の桜を発見



江南の「小江川1000本桜」にあるくまがや小麦の会の桜です。桜の里親を募集し、毎年100本ずつ植樹して10年がかりで桜の名所を作る「小江川1000本桜事業」が始まった2009年、当会も3本の桜の里親になりました。13年経ち、大きく育って綺麗に咲いていました。桜の種類は「神代曙」。それぞれの木に里親が付けた名前のプレートが建てられています。全長12kmのハイキングコースがあり、車からでも楽しめます。来年の春はぜひ訪れて小麦の会の桜を見つけてください。(R)

小麦の会ラッピンク自動販売機が増えました 熊谷市役所前「バイチャリ」

熊谷市役所前の自転車店「バイチャリ」駐車場にくまがや小麦の会の自動販売機が設置されました。コカ・コーラ様の各種ドリンクが購入できて、売り上げの1部が当会の活動資金に寄付されます。お近くにお立ち寄りの際にご利用ください。(R)

自販機設置場所 募集中
TEL:048-521-7801　FAX:048-521-7900

文化の薫り 熊谷偉人伝

藤原不比等（ふじわらのふひと）（659年 - 720年）

藤原淡海公・不比等墓地（東別府）

藤原不比等（淡海公）は大化の改新の功臣である中臣鎌足の第二子で藤原四家の祖と伝わる。奈良時代初期の政治家として、律令政治を確立し藤原氏栄華の礎を築いた。

熊谷市別府地域の伝承によると、不比等は母の車持与志子姫の故郷である現在の群馬県大胡近くに出向く途中、当地で病に倒れたが、別府村民の手厚い看護により回復したとされる。無事に役目を果たした後、感謝と崇拝の想いから養老元年（717）に当地に釈迦・阿弥陀・薬師の如来三尊を寄進し、安楽寺を開創したと伝わる。この仏像群は、14世紀に別府氏が6体の阿弥陀を加え九品仏となった。江戸時代に火災に見舞われたが、不比等への想いとともに復元制作され、現代に引き継がれている。近隣に墓地も建立された。（熊谷市立江南文化財センター 山下祐樹）

熊谷の道端から ～ゆるゆる散歩雑記帳～

成長した桜リバーサイドパーク

平成11年、熊谷市と合併前の旧大里町にオープンした桜リバーサイドパーク。ここは、和田吉野川の堤防に沿った桜並木が楽しめる。開園から8年経過した平成19年の写真を振り返ると、まだ細い桜がポツポツと花を咲かせ、若々しくも頼りなげにも見える。毎年のように見守りつつ、改めて15年後の今年と見比べると、木は遊具を大きく越える高さに育ち、花付きも豊かになっている。桜並木は、最初こそ人間の手による苗木植付けから始まるが、いつの間にか大木の群れへと成長する、その生命力に驚かされる。(N・T)

平成19年(2007年)4月撮影

令和4年(2022年)4月撮影

■ 会員募集
賛助会員年会費 10,000円　一般会員年会費 一口1,000円
お申込み:TEL 048-521-7801　FAX 048-521-7900

次号のお届けは 2022年12月の予定です。
編集室　TEL 048-521-7801　FAX 048-521-7900

あの町この店

㈱ 加島屋

ワインと地酒専門店　㈱加島屋
電　話　048-521-0068　fax　048-521-7047
営業時間　9:00 ～ 19:00　日曜定休
住　所　〒360-0044　熊谷市弥生 2-20

ワインと地酒の専門店

熊谷のお祭り広場南端西側にワインと地酒の専門店「加島屋」があります。社長は上林実さん、熊谷で初めてワインのソムリエ資格を取った方です。その為、加島屋はワイン販売に関して熊谷で唯一無二の存在とワイン通の間では知られた店です。今回、加島屋さんのこれまでの道のりを色々お聞きしました。

加島屋のお店の前を通ると目につくのは「久保田特約店」の看板です。今でこそ「久保田」はとても有名なお酒ですが、久保田が誕生した37年ほど前は各市に1店舗か2店舗の久保田特約店を選び、その店にしか提供しないという戦略をとっていました。その頃、酒屋経営の勉強をして、あるカリスマ社長と出会い、「これからは地酒とワインを取り扱うことだよ」と、教わった上林さん。これが第1のターニングポイントとなり、加島屋で地酒を扱うようになっていました。その事が功を奏し、久保田の特約店に選ばれたそうです。埼玉県内30店舗の一つでした。5年くらいで久保田は大ブレーク、遠くからも買いに来られたそうです。

地酒に関してはこうして扱い量も増えましたが、ワインについてはもう一度勉強したいと思っていた所、当時渋谷にあったワインスクールで勉強したらどうだとアドバイスを受け通学、1992年熊谷で初めてのソムリエ資格を取得されました。これが二度目のターニングポイントになりました。その後、ワイン販売に繋げるためワイン会を開いたらどうだとのアドバイスもあり、ワイン会を始められました。これは今でも続いていて、今年は30周年記念の年になるそうです。加島屋主催のワイン会は毎回テーマを決め年5回ほど開催、都内や神奈川からの参加者もいらっしゃるそうです。その他、様々な団体から頼まれ、多い時には年20～30回ワイン会を開催されていました。コロナで2年間中断したものの、30周年記念の今年こそは加島屋主催のワイン会が出来たらと考えているとのこと。

店内には温度管理されたワインセラースペースがあり、千本ほどのワインがあります。ワインの頒布会、ワイン会はどなたでも参加できます。個人的なワイン会の開催にも応じているそうです。熊谷にワインの文化を伝え、広められてきた上林さんです。上林さんお勧めの、美味しいワインを飲みたくなりますね。(O)

㈱加島屋社長 上林実さん　㈳日本ソムリエ協会公認ソムリエ(No7710)

創立50周年 立正幼稚園

認定こども園　立正幼稚園は、熊谷の地で50周年を迎えることができました。皆様のご支援を心より感謝申し上げます。

◆2019年より認定こども園として0～2歳児のお子様もお預かりしています。
◆森のレストランを開設し、専任のシェフと栄養士が自園の温かい給食を作っています。
◆ラグビー教室アルカスキッズを始めました。女子7人制ラグビーチームアルカスの現役コーチ・選手が指導してくれます。

※保育教諭（正職・パート）、レストランスタッフを募集しています。
自然いっぱいの、森のあることも園で一緒に働きませんか?

認定こども園 立正幼稚園
〒360-0164 熊谷市楊井1748-2　TEL　048-536-1688

50th ANNIVERSARY Rissho kindergarten